

## 授業実践の振り返り

補習授業校名：ロサンゼルス補習校あさひ学園トランス校 指導者：ユウみちこ 授業実施：2023年10月

学年・教科：小学部1年国語 単元名：くじらぐも

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1	「くじらぐも」を読んでひとこと感想を言う。	子供達にとっても興味深いお話で、内容を楽しめた。ただ、ひとこと感想を言うのは、言える子と言えない子がいた。実際に起こったことを板書して、（くじらがしゃべった、雲に乗った、等）その中から、選ぶと言う工夫をしても、言えない子がいた。板書の字が読めないのか、自分で出来ない、と言う心理状態から、抜け出せないのか。	今後は出来ない児童の原因を探り、そこから手立てを考えたい。今のところ、出来ない、という心理状態が原因ではないかと思う。その子はひらがなを音読で読めているので。
2	実際に1年2組の子供になって体操をして、くじらぐもと話す。それから想像しながらパートナーと話す。	外に出て実際にするのは、元々の指導案にはなかった。直前にくじらぐもの実写版を言という動画をたまたま見つけて、ここからヒントを得た。即座に指導案を変更して取り入れた。その後の想像がとてもスムーズにいった。色々想像できた。体験させることが大切だと分かった。	AG+の打ち合わせズームで「子供達の笑顔が見れたらいいですね。」との言葉を最後にいただき、それでそのことを念頭に授業をした。教師も同様、言葉掛けで、救われる。
3	ワークシートにくじらぐもの上での会話を書く。	ワークシートはあるものをそのまま使ったため、吹き出しのスペースが小さく、あんなに想像できていたのに、書いたことは少なかった。ワークシートは目的に合わせ、作り直さないといけないとわかった。でも、楽しんでかけていた。作文を書かなきゃいけない、と言う苦しみはなかったと思う。	「書くことたくさんある。」と言う声が聞こえた。このような状態にしてから、書かせるのが理想だと思った。本来書くと言う行為は、自己表現の一つで楽しいはず。

### <伸ばせた力、子どもの変化>

どの子も、決まった席のパートナーと一緒に会話をする中で、クラスの子ともっと仲良くなれたと思う。それから、くじらぐものお話を、疑似体験することで、お話をより楽しむことができた。

### <所感>

日本語のレベルが違う子供たちが、それぞれのレベルでの学びがあったか、について。レベルが高い子に関しては、特に簡単すぎると言うこともなく、楽しんで学んでいた。自分か言いたいことを、言葉たらずで、動作を交えて表現していた子は、教師が、言葉にしてあげたり、（こうやってバッチャーン、とする、と言ったのに対し、「雪合戦じゃなくて雲合戦だね。」と言い換えた。）言語も学べたと思う。ただ、取り組むのがかなり難しい子に関しては、パートナーワークの時、教師がもっと入り、手助けが必要だったと思う。机間巡視は、いつも全体を見ようとしてしまうが、できる子は放っておいて、助けが必要なこの所に行くべきだと思った。いつもできない子は、心理的に「できない」と決めつけてしまって、できることも、しなくなっている気がする。そこを「できる体験」を増やしてあげ、できるかも、と思わせてあげるのが、必要だと思った。